

授業概要

担当教員のそれぞれの学校現場での勤務経験を踏まえながら、必要に応じて受講者を2または3班に分けてきめ細かく指導していく。教職課程の履修履歴のカルテを基盤に大学で学んだ学習知と教育実習等で得られた教科等の指導力に関する実践知との更なる統合を図り、使命感や責任感、教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する教員としての資質の構築とその確認を行う。

授業計画

第1回	教職課程の履修履歴のカルテを基にこれまでの学びの様相を振り返り、教師として求められる資質能力が身に付いたか否かを確認し、今後の学習の方途を構築する。
第2回	教員として求められている使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項の確認をする。
第3回	教員として求められる社会性や対人関係能力に関する事項の確認をする。
第4回	児童の理解や学級経営案に関する事項の確認をする。
第5回	子どもの特性や心身の状況を把握した上で、集団の育成を目指した学習経営案の作成を行う。
第6回	小学校の授業を参観をする。教員に求められる教科内容等の指導力を学ぶ。 ※学外活動
第7回	授業設計からその実践に至るまでの実践的指導力の様相を整理する。
第8回	教科内容等に関する指導案を作成する。グループで討論し、作成。①
第9回	模擬授業①
第10回	授業分析を行い、それを基に授業研究を行う。実践的指導力を確認する。①
第11回	教科内容等に関する指導案を作成する。グループで討論し、作成。②
第12回	模擬授業②
第13回	授業分析を行い、それを基に授業研究を行う。実践的指導力を確認する。②
第14回	教育講演会 ※外部講師招聘
第15回	教員に求められる実践的指導力や教員としての資質能力について確認する。
第16回	試験：授業設計からその実践に至るまでの実践的指導力が身に付いたかを確認し、加えて教員として求められている資質能力を確認する。

到達目標

1. 教員としての必要な資質能力の育成を志向し、指導案等の授業づくりからその実践に至るまでの一連の力量、つまり実践的指導力を体得できる。
2. 近年問題になっている教育的諸問題について理解し、解決策を考えることができる。

履修上の注意

教職を目指すとの自覚を持って授業に参加すること。原則として遅刻欠席は認めない。

予習・復習

授業内容は、将来教職に就く際に必要な実践的指導力の育成を目的としたものである。そのことを念頭において復習に力を入れること。

評価方法

教職課程の履修履歴のカルテを用いてうかび上がった課題や必要に応じて課す課題への個々の取り組み状況やその理解度（50%）、プレゼンテーションなど授業での取り組み（20%）、試験（30%）で評価する。

テキスト

小学校学習指導要領。その他は必要に応じて授業内で配布する。

授業概要

将来的に、教育・保育の現場において専門家として十分に対応できる能力を身に付けることが重要である。そのために、現在に至るまでの、教職課程・保育士養成課程の履修やさまざまな活動を通して、教員・保育士として必要な資質能力が習得されているかどうかを各自確認して、課題や問題点を明確にする。問題点の改善に努めると同時に不足している知識や技能を補い、その定着を図ることを目的として指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	子ども同士のトラブルへの対応
第3回	保育相談支援：保護者への対応
第4回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助
第5回	子どもを尊重する保育：子どもの人権擁護の視点から考える
第6回	家庭通信の作成と検討
第7回	日本語を母語としない保護者とのコミュニケーション
第8回	保育士・幼稚園教諭としてのキャリア形成
第9回	安全で健康な園生活をつくる
第10回	保育カンファレンス：気になる言動を示す幼児の理解と援助
第11回	保育カンファレンス：幼児の社会性の発達を促す関わり方
第12回	保育現場における子育て支援とカウンセリングマインド
第13回	職場における協働と自己マネジメント
第14回	外部講師からのアドバイス
第15回	教職実践演習カルテを基にした振り返りとまとめ

到達目標

教育・保育士として求められる資質・能力として、次のことを身につけ、実践に生かすことができる。

1. 使命感や責任感、教育・保育的愛情を身につけることができる。
2. 社会性や対人関係能力を身につけることができる。
3. 子ども理解や学級経営を身につけることができる。
4. 教科・保育内容などの指導力を身につけることができる。

履修上の注意

1. 3名の教員のそれぞれの専門性に基づいた講義・演習であり、保育・教職実践の目的に関わる重要な内容であるので積極的に受講すること。2～5回、6～9回、10～13回、各4回ずつを3グループに分けてオムニバス方式で受講する。
2. 出欠席は実習に準じる扱いとなる。
3. 積極的な受講態度で望むこと。

予習・復習

シラバスに基づき、次回の内容についてはあらかじめ下調べする等、予習して臨むこと。
各回で学んだこと、技術、理解を確実なものとして定着させるべく、復習をすること。

評価方法

レポート提出 50%、受講態度(積極性)50%に基づいて評価する。

テキスト

特には指定しないが、必要に応じてその都度指示する。